時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢 八厘
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢	三厘 五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢 五厘

時事新報

式の流行

菊地武德 草

例へば會社を結んで新に事業を創始せんとするに當り請願の手續も整頓して愈々目出度開業の運びに至れば觀の印として斯る開業式を擧行し、數百年崎嶇の路を修め、千萬人來往の橋を造れば或は開道式と云ひ或は架橋式と稱し其他學校病院諸々の土工建築等にして漸く落着を告ぐるに及べば其奏功を祝して盛式を設くると西洋諸國に於て夙に其例多しといふ我國にても古來これに類似のものありて王公大名の城を築き神社佛閣富家の家を造る何れも棟上を祝するの習慣なりしが近年に至りては開業式と云ひ開道式と云ひ各種の儀式都鄙一般に流行して些細の事にまでも推及ぼし不相應の金錢を費やすと比々吾人の耳目にする所にして中にい未だ事業の着手に至らず又家屋の建築落成したるにも非ず唯地所を買入れ之に標木を建て是は何々事業を執るべき建築地なりと云ふのみにして取敢へず建標式なるものを擧行し種々樣々の趣向を設けて爲めに幾百圓を費やしたりと云ふもあり相率ゐて式歡を熱する其有樣を觀察すれば彼の棟上の發達したるものゝは非ずして種々の文明主義と共に西洋より輸入し來り我國人の摸倣心は偶々之に投合して其極遂に今日の風をおこしたるものゝ如し但し何れにもせよ我輩は一概に此等の儀式を非難するものに非ず殊に商業等に關する目的のものは別に廣告の代用をおすべければ自ら其必要あきに非ざるべしと雖ども唯徒らに世間の風潮に靡蓮せられ恰も人生行樂の一として思慮もなく無用の儀式に散財するに至りては國の經濟の爲めに我輩の取らざる所あり

然りと雖も民間の事い其私の利害に一任して猶は可なりとするも官邊に於て亦此等の儀式を擧ぐるに至ては我輩の意に釋然たらざるものあり例へば省廳局の新築落成したりと云ひ官設事業の緒に就きさりと云ひ彼是の式典は寧ろ民間よりも割合に多くして亦甚だ盛大なるは世人の普く知る所ならん蓋し我國の政府は古よりの習慣により何事も民間に立優るの常なれば儀式盛大なりとして今更怪むに足らざれども其儀式を擧ぐるに當り賓客を招待するに業内狀は大抵局に當る長官と其夫人の名を以てすると多しといふ而して其長官の身代を尊敬に値するにも限りあり財産にも限りありて實際決し難き儀式を張るに足るべしとも思はれざれば金の出所は官の筋よりするものゝ如しと雖ども一歩を進めて其出所を問へば人民の財源より外なる可き財の用法は畢竟なる人民の財源より外なる可き財の用法は畢竟なる人民の話に云く外には紋門紅燈の飾を爲もして内には酒池肉林の饗應あり歡聲起り觀音和して瑞雲祥氣鬱鬱たる其盛況に覺えず熙々として喜びを催ほし厚く主人に向て謝意を表すと雖も却て心を冷にして事の裏面を考へ一片の肉、一瓶の酒その出處の何くゝあるやを吟味し來れば粒々皆汗の民費に出づるものと認むるの外あるを知らず思ふに今夕一回の費用を以て之を民間の生計に照すときは幾月の間幾百人の口を糊するに足るべし目前には見えもせざれ定めて今頃は村童の飢渴に泣くもあらん野翁の病痾に苦むもあらんとて想を遠方に馳せて彼是と思案を運らせば珍味佳肴も胸に痞へて喉を下らず興味自ら索然として殆んど其座に堪へざりきと云へど蓋し此の如きの式典は今の日本に不相應にして亦是れ國財の泉源を汲み減らすの一助おれば式を行ふは可なり賓客を招くも亦不可おしと雖も飲食の爲めに人を集め飲食の爲めに來り會するの弊風を除き過分の盛華に誇るおかからんと我輩の切望する所なるのみ

官報

〇内務省訓令第二十二號

警視廳　府縣沖繩縣ヲ除ク

監獄則ニヨリ在監人ニ給與スル工錢ハ自今府縣會ノ議決ヲ經監獄費内譯ニ給與錢ノ目ヲ設ケテ之ヲ支拂ヒ其工錢ハ監獄費雜入ニ編入スルコトヲ得

〇辭令

明治廿一年十月十六日　内務大臣伯爵山縣有朋

補嚴嶋神社宮司（十月十五日内務省）　野坂元延

高等師範學校教諭　千本福隆

專門學務局兼勤ヲ命ス（十月十三日文部省）

農商務大臣秘書官（奏任官一等）　齋藤修一郎

上級俸下賜

第一高等中學校教諭　大森俊次

特許局審査官試補ヲ命ス

年俸金九百圓下賜（以上十月十五日農商務省）

農商務省地質局長　和田維四郎

京都府及三重愛知二縣下巡廻ヲ命ス（十月十五日農商務省）

〇歳入決算報告書書式中の儀に付き問合及回答　去月二十五日福岡縣知事より大藏省主計局長へ本年御省訓令第三十二號歳入決算報告書書式中歳入豫算增減表ノ儀ハ勅令若くは法律ニ據リ增減しさるものを記入調製すべきものにして其增減おき場合は決算報告表の豫算現額と同數ある豫算原額を記入するゝ止り其他に記入を要するものも有る間敷樣被存候條若し御差支無之儀ゝ候はゞ增減なき場合は該表進達せざる樣致度追て增減表調製に當り其增減なき税目は該表へ記入せざるも御差支無之哉と問合はせたるゝ去る十三日同局長より本年當省訓令第三十二號書式中歳入豫算增減表の儀に付き收第三三三號を以御問合の趣了承右は御意見の通にて然るべく尤も此場合に於ては決算報告表表紙に「豫算裁定額に對し增減なきを以本表豫算現額の欄内には裁定額を掲ぐ」と御記載相成度且御追書の趣は差支候條都て御記載可有之と回答せり

〇岩沼鑛電間鐵道里程　日本鐵道會社鐵道線路中岩沼鑛電間に新設したる增田岩切兩停車場前後各驛間の里程は岩沼增田間四哩三十七鎖二十四輪、增田仙臺間六哩三十八鎖二十九輪、仙臺岩切間四哩七十八鎖七十一輪、岩切鑛電間四哩二十三鎖三十九輪なり（鐵道局）

〇初霜　去る二日三日の兩日午前五時六時廣嶋測候所に於ける寒暖計の示度は最も低く攝氏九度乃至十度を示し前年同季節の溫度より低きゝと七八度にして著しき冷氣を覺へ情後國甲奴、神石の二郡及安藝國山縣郡に於ては既に初霜ありと之を前年の初霜と對照するゝ早きゝと殆ど一箇月なり（廣嶋縣）

雜報

〇日本流行の西洋風　米國現任大統領クレヴランド夫人故大統領ガーフィルド氏の未亡人を始め同國の重立たる貴女數名連署して日本の女服は高尚優美にして美術の旨に合ひ西洋女服の遠く且つ衛生上有害なるの比にあらざれば西洋服の採用を廢し日本固有の女服を保存するの得策なるを日本婦人に勸告したる書狀の寫は先頃の本紙上に掲げたりしが近着の倫敦グラフヒック新聞は右に付き說をなして曰く米婦人より日本婦人に送りたる忠告書は如何なる利益を生ずべきやや今日明言し難けれども米婦人の忠告は實に賞讃すべく余輩は日本婦人が米婦人の好意に對して熟慮あらんことを希望するおり抑も日本固有の衣裝は男女を論せず日本の氣候及び日本人一般の習慣に恰當せるものなれば日本人が和服に比して美麗あらざる上に日常生活の目的に不適當なる西洋服を用ひんとするは悲むべき事と云ふべし茲に日本の爲に惜むべきは日本人民の西洋風に模擬せんとするは衣服の點のみにあらざるの一事なり例へば日本人民は突然に美術の性を具へ昔時日本美術家の第一の目的とする所は皆畢世の意匠を凝らして美術品を製するにありしも今日は其目的單に利益の點に向ひ粗品を造出して顧みざる有樣なれば其結果い早晩歐米諸國と同一樣となり日本美術の粹を失ふに至るべし日本人民は近代文明國の仲間に加はらんと計畫せり而して余輩は日本人民が其目的を達するには日本人の本性と遺傳の粹を保存するにありと信ずるおり云々

〇蠶絲業組合準則全廢の說　細大不同粗製濫造の者あるより我國産の第一に位する生絲が自然海外需用者の信用を失ふに至るを防ぐん爲め去る明治十八年十一月農商務省達第四十一號を以て蠶絲業組合中央部會議に於て準則を發布し其後本年二月に至り蠶絲業組合準則を廢止せしが如ゝに止り即ち損益相償はずと云ふ可く且今や自治の氣運に際したる世の中民間の事業に干渉するよりは寧ろ之を全廢して各地方の便宜に從ひ單純おる同業組合に放任するゝ如しず當業者敢て愚ならざれば業務の盛大を來すと疑なしと云ふに在る由なて已に右の主意を認めて其筋に差出したる向きもありと云へり

〇十五州有志懇親會　奥羽七州北陸七州に信濃を加へて即ち十五州の有志懇親會は來る二十二日頃新潟に於て開く由なて有志總代は各州より來會の都合なりと

〇啞子裁判所の書記となる　盲目聾啞は事の用に足らざる片輪物とて殆んど之を廢棄したりしも教育の道誘導の法開けてより復た單に片輪ものとて擯斥し去るべからざる事の例は我邦のみに就て之を見るも隨分少おからず現に京都府廳にては曾て同地の盲啞院を卒業したる啞生を傳入れて書記となし居るよしおるゲ又去る十一日京都始審裁判所にては同府廳の紹介にて盲啞院の卒業生村上吉五郎（二十一年）と呼べる啞生を書記に傳入れたりといふ

〇岩越鐵道の測量の儀は去る六日其筋へ雇入の儀を出願し

〇神奈川教育會　上に於て開きしが去る十四日は午前十時より門氏等の演說あり百名にて中々の盛

〇大坂石炭の景況　共に年々增加の景況入する高は一ケ月更に京都、滋賀、近頃大坂へ輸入を生せりと云ふ輸出する石炭は課せられたりとなりしに以來同州よりの石炭船はれぞ大坂へ輸送の響として大坂に至るべしと云等廿六圓七十錢、廿四圓、本洞上等部廿二圓五十錢、錢、勢田廿一圓八一圓、大ノ浦粉十煽十五圓五十錢

〇大坂府民の公債　よして去る九月債高は金札引換公業公債證書五萬千四十五圓、新公債證書百六十四萬四千七百七十四

〇伊勢山田の景況　と云ふべき産物を當にして一年の參宮者は年毎に微に赴きしが窮此兩三年以來は人すに至りたりと云蒸氣機關を備へて起業社は製絲を紙の原料に混入すと山田工業物の出子の製造を開き相傘工、陶器、等種も頗る氣力を與

〇決鬪狀　此程新聞社へ送りたる拜啓別紙の通り右樣の社說掲載んと被存候間御の好みを以て度候草々

新聞社へ

本月五日以來貴

御賣
宇治別製玉露茶
宇治別製薄農茶
製山城宇治
皆鄙五

小田知雄儀
豫テ病氣ノ處養生不相叶昨十五日午後七時四十分死去仕候ニ付此段生前厚誼諸君ニ御報申上候

ちき病
瘋癲癇病の兩病を專治するに溫浴法を加ふ其費用左の如し